

社団法人 工学院大学 校友会

第102号 校友会報 30卷1号

昭和57年4月



八王子キャンパス内より南方（八王子市街方面）を望む

— も く じ —

○学園将来計画大綱（案）……………伊藤 鄭爾…1	○昭和57年度事業計画（案）……………12
○就任の御挨拶……………吉田 清風…2	○昭和57年度歳入・歳出予算書（案）……………12
○フレキシビリティ……………川元 修三…2	○昭和56年度財産目録……………12
○風呂桶の渦巻と穴埋め式問題……………今井 功…3	○昭和56年度収支決算書……………13
○化学工学科卒業のOBの皆様へ……………吉村 慶英…4	○昭和56年度事業報告書……………13
○都市計画からみた東京都……………高山 英華…5	○昭和56年度事務報告……………13
○昭和57年新年懇親会の記……………広報部…7	○近況報告 ・電気同窓会……………内山 太…14
○近況報告 ・学校法人……………8	・建築同窓会……………小高 鎮夫…14
・大 学……………8	・応 化 会……………富所 良二…14
・高等学校……………9	○校友会だより……………14
・専門学校……………10	○支部だより……………（北海道支部大会）……………15
○賛助会費徴収のお願い……………会長 前島 為司…11	○第5回全国大会開催のお知らせ……………落合 康男…16
○第26回定時総会開催のお知らせ……………11	

昭和56年10月

明和の土建機

振動ローラ

ハンドガイド

MRA-85型, 0.85t
MRA-75型, 0.75t
MRA-65型, 0.65t
上下回転式ハンドル
油圧式

- サイド転圧可能
 - ステアリング軽快
- MVR-30型, 3.0t
MVR-26型, 2.6t
MVR-12型, 1.2t



新開発

タイヤ
鉄輪

アスファルト
舗装最適

コンバインド

ローラ

センタービン方式

MUC-40型, 4t
(前鉄輪・後タイヤ)
MUS-40W型, 4t
(前後共鉄輪)



バックホ ランマー

ベルト掛け式
RA-120kg
RA-80kg
RA-60kg



タンパランマー

RT-75型
エンジン直結式
オイル自動循環式



コンク クリート

MC-10型
MC-12型
MC-22型
MC-30型



(カタログ進呈)



修繕 P-9型
理装 P-8型
整形 VP-8型
VP-7型
KP-6型



社長 月原 貢 (機58)
昭和43年春 勲四等旭日章
昭和53年秋 紺綬褒章

株式会社 明和製作所

川口市青木1丁目18-2 〒332
本社・工場 Tel. (0482)代表(51)4525~9
大阪営業所 Tel. (06) 961-0747~8
福岡営業所 Tel. (092)411-0878・4991
広島営業所 Tel. (0822)93-3977(代)・3758
名古屋営業所 Tel. (052)361-5285~6
仙台営業所 Tel. (0222)96-0235~7
札幌営業所 Tel. (011)822-0064

学園将来計画大綱(案)



学園将来計画委員会

委員長 伊藤 鄭 爾

いま私たちに求められているのは選択です。すなわち前進するか、じり貧に陥るかの何れかです。激動の現代の中にとどまっていることはありません。すでに私たちは都心型学園という独自のビジョンと目標と達成方策をもったと信じています。私たちはここで学園内外で何が起ったか、何が起りつつあるか、そして何が起ろうとしているか検討してきたのです。そこで今日の私たちが必要な第一のものは実行の決心なのです。

本年8月マスタープログラム(案)は作成されました。それは10年の事業期間であり、同時に転換期であることは明らかであり、夢を現実とする努力の期間です。

ここにおいて栄光の未来を待望するならば皆さん方がそれにふさわしい義務を果し犠牲をいとわない決意と勇気をもってほしいのです。またこの計画には少なくとも10年の歳月が必要とされるとするならば、その成果を手にすることのできる人とできない人が出てきます。しかしいずれの人であっても何をしてくれと学園に要求するのではなくして、いかに学園に貢献できるかによってその報酬と考えていただきたいと思います。力のある人は力を、金のある人は金を、知恵のある人は知恵を出しあうことが参加の一種であると信じます。

この大綱は理事会、将来計画委員会で決定されたものではありませんが、その発表については承認を得たものであります。それゆえに改善すべきところは改善し全学の多くの方の合意が得られたものと判断されたら理事会決定の手続きをとるようにいたします。

記

1. 学園の将来像：都心型を指向する
教育内容、教育形態および校地はこれを軸として考慮される
2. 教 育
(a) 文部省(管理局、大学局等)、国土庁、東京都、新宿区、八王子市等の行政指導の確認と了承をとる必

要がある

- (b) 学園(大学、高等学校、専門学校)の体質改善を図る
- (c) 大学第1部は一時八王子校地に全学を受け入れる必要がある
- (d) 大学第2部は文部省の行政指導によって募集停止せざるをえない。代案は新宿開発中に考える
- (e) 専門学校は八王子に移し昼間部を拡充する
- (f) 高等学校は計画推進中は現在地を離れることのない教育形態とする
- (g) 新宿開発後、高等生涯教育、高等研究機関および学術的国際交流を考慮する
- (h) 新学部等新設等は事業完了後に考慮する

3. 施設・設備

- (a) 八王子校舎の着工は1983年(昭和58年)とする
- (b) 八王子校舎への集結移動は1986年(昭和61年)とする
- (c) 新宿校舎の建設開始は1986年(昭和61年)とする
- (d) 新宿校舎への移動は1990年(昭和65年)とする
- (e) ただし次の設備は八王子校舎に残す
重装備のもの、接地性を要するもの、地下鉄の影響をうけるもの、防災上危険なもの、買いかえた方がよいとみなされるもの等

- (f) 新築の新宿校舎には現教員の研究室は確保される

4. 人・業務

- (a) 八王子校地集結中の業務計画と人事計画をたてる
- (b) 夜学停止に伴う業務計画と人事計画をたてる
- (c) 新宿校地再開発後、新業務体制をとる

5. 資 金

- (a) 資金計画は八王子校舎建設計画と新宿開発計画とリンクさせない
- (b) 八王子校舎建設の資金は私学振興財団からの借入、経営費および延べ払い等による

(c) 新開関係の資金はディベロッパー等との提携による保証金等と金融機関からの協調融資等による

6. 事業

(a) 本学の独自性を確保する一環として高等生涯教育等を行ない社会的ニーズに応え併せて収益を図る

以上



就任の御挨拶

法人 調査企画室長 吉田 清風

法人調査企画室に勤務しております吉田清風でございます。

今回、校友会より要請を賜わり、全く思いがけなく校友会事務局局長兼務として、勤めることになりました。

つきましては、極めて不馴れであり、未熟でございます

すが、お引受けした以上何とかお役に立ちたいと存じております。

皆様の絶大な御支援と御協力を切望して就任の御挨拶といたします。(新任校友会事務局局長)



フレキシビリティ

生産機械工学科

主任教授 川元 修三

最近の日米経済摩擦にもみられるように、日本の製品は安くて、いい品物だということは世界中で認められているとあっていい。安価で高品質の製品をつくる生産方式として、流れ作業に代表される大量生産・大量消費方式は、高度成長時代にはその効果を発揮してきた。このような供給主導形の考え方は需要が供給を上まわっているとき、または新しい需要が開拓されている間は、うまく機能しているが、需給関係が次第に飽和してくると、色々な摩擦がでてくる。日米の摩擦もその一つかも知れない。

さてオイルショックを契機にして、省資源、省エネルギーがいわれだし、また需要の多様化と共に、従来の大量生産・大量消費方式に対する反省がうまれてきた。

一つの生産設備で、多品種・中小量生産が可能となる生産方式として、最近フレキシブル・オートメーション、またはFMS (flexible manufacturvig sytem)

ということばがいわれだした。フレキシビリティを主体としたこの生産方式では、最もフレキシブルな、融通性に富むものは人間であり、人間の機能に近いものを機械化した産業用ロボットが、その主役に登場したのである。今の所、産業用ロボットの知能指数は、人間に比べて、まだまだ低い。最近のエレクトロニクスやコンピュータの発達、ロボットの知能をどこまで人間に近づけることができるかが、一つの目標となっている。最終的なゴールと考えられている無人工場では、我々人間が欲しい品物を、必要な時に、必要な数だけ、ボタン一つ押すことによって入手することができるといわれている。

フレキシビリティは何も生産方式にばかり考えられるものではなく、例えば教育のフレキシビリティということも考えてみる必要がある。現在の技術革新のテンポはますます加速化しており、10年後、20年後にどんな技術

が生れているか誰も予測することができないであろう。これは逆に今から10年前、20年前に現在のエレクトロニクスやコンピュータの発達を予測し得たかを考えてみても分ろう。

そのような技術の変動の中ではいたずらに専門化したSpecialistの養成を目指した教育が果して適切かどうか考えてみる必要がある。生物でもあまりに特殊化した種は、一寸した環境の変化にも適応できず絶滅の目に会う

という。大学教育においても、専門教育に重点をおくべきであるという意見と、高い教養と基礎的知識の教育を主体とすべきだという意見があるが、その答えは明かのように思える。

我々が目指すべき教育というのは、いつでも新しいものに積極的に取り組み、それを消化し、自分のものにすることができるような知力、体力、精神力をもった人間をつくることにあるのではないだろうか。



風呂桶の渦巻と穴埋め式問題

共通課程主任教授 今井 功

台風が巨大な渦巻であることは気象衛星でとった写真で今ではだれでも知っている。そして、北半球では台風は左巻き(時計と逆回り)の渦巻であることや、地球の自転の影響でおこることも学校で教えられている。つまり、地球上の気象は、地球の自転によって地軸を軸とする回転運動を行っており、それが低気圧に吸い込まれると、回転運動が集中して巨大な渦巻に成長すると説明される。そして、その現象の身近な例として、風呂桶から水を抜くとき渦巻ができることが挙げられることがある。そうすると、北半球では風呂桶にできる渦巻はいつでも左巻き、南半球では右巻きということになるが、これを事実だと信じている人も多いようである。

しかし、実際は、地球の自転は1日に1回転というごく僅かなもので、風呂桶の水の運動に影響を与えるとはとても思えない。大気中での台風の成長発達に対する地球自転の影響を実験室でシミュレートするためには、風呂桶——水槽——を回転台の上にのせるなどして、もっと大きな回転速度を与えることが必要なのである。しかし、風呂桶をあらかじめ回転させておかなくても、実際に渦巻ができるではないか? なぜか? 当然、このような疑問が生ずるであろう。それには、風呂桶の排水口の位置が対称的ではないからだという一応の説明がある。それなら、排水口の位置を完全に対称にすれば渦巻はできないのか、という疑問がおこる。実は、これは現

在の流体力学でも未解決の難問なのである。

ちかごろ入学試験などで穴埋め式の問題が大はやりである。しかし、これに対していささか疑問を感じることもある。①~⑤のうち適当なものを選んで穴を埋めよ——といった問題である。正解が必ず、しかも1つだけ、①~⑤の中に含まれていることが前提になっているから、受験者としては正解について確信がもてなくても、とにかく正解らしくないものをつぎつぎ消してゆけばよい。つまり、「消去法」で正解が得られるしくみになっている。これによって受験者の知識や判断力についてある程度の判定は得られるであろう。しかし、試験をはなれて、現実の世界ではどうであろうか? なにかある問題にぶつかったばあい、起り得る状況は①~⑤のようにはっきりわかっているものだろうか。そのようなばあいに正解を見出すことはむしろ簡単である。むしろかしいのは、そして重要なことは、起り得る状況をいろいろ想定して、その中で最適の解を求めることである。たとえば、詰将棋の問題を解くのは比較的やさしい。解が存在することがわかっているからである。しかし実戦のばあいはどうか? 研究室でも、現場でも、あるいは日常の問題についても、こみ入った状況の中から、考え得るばあいを①、②、……と整理することがまず第一に重要であって、そのばあい分けができた段階では、その中の最適の解を見つけることはむしろ容易である。

入学試験で穴埋め式の問題が採点の容易さや公平さの点からすぐれているのはいうまでもない。しかし、受験者が受験準備に追われて、あらゆる問題が「①～⑤の中に正解が必ず1つある」というような型にはまった思考形式に慣らされるのが恐ろしいと思う。

風呂桶の渦巻がなぜできるか？ その原因としてはど



化学工学科卒業のOBの皆様へ

化学工学科主任教授 吉村 慶英

化学工学科卒業のOBの皆様、益々御健勝にて御多忙な毎日をお過ごしのことと存じます。

本学化学工学科も独立して十余年が経ち徐々に実力を付けてきた感じがします。本年度は競争率もかなり上昇し、したがって優秀な学生が入学してくることは間違いなく、我々も期待をかけています。化工にもやっと春風が訪れた感があります。まず、最初に、このようなニュースをお伝えして、OBの皆様と喜びをわかち合いたいと思います。

東日本では、私大としては唯一の化学工学科であり、

のようなものが考えられるか？ ①地球の自転、②排水口の位置、③水の粘性、……これらの要因を考え出すことがまず大切である。そしてその作業は、穴埋め式問題のとり扱いに熟練しているだけではとうてい不可能と考えられるのである。

また、化学工学科に対する社会の要望や評価が高まりつつある現状から、今後、我々の役割は益々重みを持つことになるでしょう。米国では、化学工学は将来性のある最も重要な分野とされています。日本においても、その例に違りものではなく、前途洋々たるものがあります。我々は自負を感ずると同時に責任の重大さを痛感します。皆様の我々に対する叱咤激励と御協力をお願いする次第であります。また何か御相談でもあればいつでも新宿校舎・八王子校舎を訪れて下さい。歓迎します。

最後に、OB諸兄の一層の御活躍を期待いたします。

新年懇親会における講演要旨

都市計画からみた東京都



理事長 高山 英華

唯今紹介にあづかりました、高山です。この学校は非常に長い歴史をもっています。

明治21年(1888年)に成立(開校)、大正震災後、大正13年(1924年)に現校舎敷地(豊多摩郡淀橋町)に移り、淀橋浄水場に面したところで、正門が浄水場側にあり、私は子供の頃、よく遊びに来ていたので覚えがあります。

そしてその後増築され現在の大きさになりました。現在はぼう大な東京都になりましたが、もとは15区で、環状線内位が東京市でした。

ここ新宿は当時は東京の郊外でありました。それが23区になり、市外であった三多摩方面が今は東京都という行政範囲になり、当時、中央線は国鉄として新宿と立川を結び西方へ発達していき、東京の人口が三多摩にのびていき、現在は東京の人口の中心が新宿あたりになり、東京都の中でも重要なところとなりました。

日本の都市は、奈良、京都のように当時の王公が都を構へ、中国の都市計画を真似て作っていた時期があります。

その後は永い徳川幕府が戦国時代を経、お城が山から平野へと降りてゆき、徳川幕府の時には港湾の平野の便利なところに城下町を作り、いろいろな文化を育ててきました。

東京もそれにならい、始めは皇居を、そして又300年の文化は江戸時代には世界で一・二を競そうようになり、西洋では城の内に土農工商、町の人を全部を入れているのだが、日本の城下町は島国のため、農工商を域の外に任せ、広く開くことをしない特色でありました。すなわち、西洋では枠の内にいれて「都市国家」を作る、日本は都市国家というものはなかった。今の堺市を始めとして、むしろ開いた形の平野を中心としたものが東京都、大阪市です。

それが明治維新以来西洋の文明を取り入れて、追いつ

け追い越せて、明治政府は東京に遷都をつくと同時に、江戸を新しい近代都市にしようとする努力をし、皇居の廻りに官庁街・ビジネス街・鉄道を新橋駅、それに議事堂と、いろいろ恰好をつけました。

それにひきかえ一般の市民の住宅市街はそれほど立派なものではなかったのです。

それに二回のダメージを受けた、それは関東大震災、戦災でした。復興はバラック造を建てておいて、お金が出来たら建直すといっていたのが、金が集まるともって儲けられると思いつづけて、市民の生活環境として「都市計画」を考へることが出来ませんでした。

ロンドンでは、1666年頃、ロンドン大火のときはまだ木造都市であった。その頃は木材も少なかったため、其の後木造禁止、燃えない石造とか他の材料で造られていったのです。これが第2次大戦でドイツから被害を受けたが、燃えない街であったためあのような市街戦という戦が出来たのです。

だが残念ながら日本は関東大震災後も木造で作り中心部だけが鉄筋コンクリートであったため、第二次大戦ではアメリカは焼夷弾を發明し、砂漠の中に木造都市の模型をつくり日本都市を燃やしてしまう訓練をしていたのです。重い爆弾の替りに軽い焼夷弾でB29に積載しあのような全区戦災都市となりました。

その後又現在非常に大きな木造市街区が延びていて、心配なのは、もう一度大地震が来ると、そのとき一遍に機能が停止してしまうであろうことです。

それは木造住宅が前の15区、特に下町の方に密集して、あの関東大震災(旧市内)で壊滅してしまいました。その時分はちょっと郊外に出れば逃れる場所があったのです。

それが現在でも23区は、もとより中央線、東海道線或は小田急線と郊外各沿線に沢山の木造市街が延びていて、危ないのは、むしろ江東地区よりも、杉並、池袋等

電気機器の設計・検査
業務
開発手法・実験計画法

小沼技術管理事務所

所属団体

(社) 日本技術士会

(社) 関西電気管理技術者協会

(社) 大阪技術振興協会

地域産業技術協力センター

電気管理技術者
電気技術士
生産管理

小沼 三郎

(昭2電気卒)

校友会大阪支部理事

☎666-01 兵庫県川西市東多田字滝の上3-147

電話 (0727) 93-0341

6 第30巻 第1号

その周辺が調査により大火の起る危険性の多いゾーンであり、避難場所も少ないところで、中央区などかえって安全といえるところでしょう。

もう一つは、当時は自動車は問題ありませんでしたが、今は危険なトラブルを起こし易く、例えば1台自動車がひっくり返りでもしたら大事になるでしょう。

もう一つ、以前の街はたんなる自然と伴に生活できていて、あまり近代化されていなかった、ある意味では非常に安全のサイクルであった。アミバーとかは単純な作用でライフサイクルを復活しますが、我々高等動物は、あるところに針を1本うたれると一遍でまいてしまふ、複雑な要素、構造をもっているのです。

それですら東京を人間と考えますと日本の脳の中心あたりでありましょう。

現在は色々な情報網が集中しており、オンライン、エレクトロニクスをつかい、世界の宇宙衛星を通じて、世界の交通網、通信網も発達し、今では楽になりました。

しかし逆に考えますと地球全体がかなり高等動物化してきているといえましょう。

ところがいくら防衛を固めても、これからの戦争はボタン一発150mの誤差しかないミサイルが飛んで来ます。

軍艦や飛行機を何十台増やしても国を護りきれないのではないのでしょうか。

それよりも日本の首都を始め各都市を地震に対しても火災に対しても、日常生活に対しても結果として安全につながるという発想がもてないかと、私のいつわざる感想です。

我々は子孫の為に、我々の国土をきれいに造り直し、日本民族が未永く安全に暮らしていられるところとして東京に、大阪に、各土地、地方都市に定住が出来る生活環境を造ることを180°転回して、生活権、定住権を重要視しなければなりません。

政治、経済が一致しておるような感じの英国では工場、学校を分散させる気運が生まれました。

ブラジリア(ブラジルの首都)が首都移転で出来上がったのですが、現在再考の時期が早くも世界的課題となっ

ています。

もう一度都市にあるべきものを見直し、都市に呼びもどす方がよい、都市に学園都市を造ろう、英国はあまりにも分散してしまい、「英国病」が産業までも衰退させています。

それにひきかえ東京は活力がありますので都心にもう一回帰って来る必要のものは帰えると考えられます。

大阪でも大学を都市より出しすぎて、街に知的なおいが少なくなりました。

我が工学院大学もこの際どのような方法をもつか、ここに関連性を生むはめになった。

それで、都心という言葉がよく使われますが、大きくみると東京の15区の旧東京市は都心といってもよいのではないのでしょうか。

又もう少し小さくみれば、都心は三区で中央区、千代田区、港区といえましょう。

いまヒッターランド(後背地)の人口をもとにしまして新宿は初め「副都心」といい、現在は「新都心」と呼ばれ今迄と違った形をしています。

東京都庁も新宿もってくることになり、都心という意味は広く又狭くとなったり、古くとなったり、新しくとなったりするようになっていく、これらを考えてか本学では先輩達が安いところということでは本学の土地を購入したのでしょう。

今この土地の価値は、その立地条件の良さは私達が造り上げたものではありません。

現実にはあまりにも大きな価値を展望しております。

ですからこういう場所を、今後工学院大学の将来の発展のために、どう使うかということが今日大きな問題なのであります。

例えば夜間には、生涯高等教育の場として、或は大学院の卒業生教育、更に社会に出た人達をもう一度教育する場、高齢化社会の老人教育等々の教育の場としての活用は、社会的にも重要視できるのではないかと、皆さん方と忌憚のない意見を話し合いながら今後将来の方向をあやまらずに進みたいと存じます。

(金尾記)

昭和57年新年懇親会の記

広 報 部



会 長 挨拶

(教授)、遠藤高等学校長、鈴木専門学校長、鎌田、赤松、増田、伊保内、柿沢、山下各主任教授、小倉学生部長、平岡専門学校教務長、計13名

○校友会出席者合計 100名

◎感謝状贈呈者

前 川崎支部長 関口城吉 (A建73)

〃 鹿児島支部長 水瀧清見 (B電102)

〃 台湾校友会会長 杜端昌 (G工化5)

◎死亡者(哀悼)

前 中野支部長 竹内七蔵 (B電101)
(56. 8. 16 66歳)

前 北海道支部長 渡辺彦太郎 (A電59)
(56. 12. 5 83歳)

前 中野支部長 小宮清則 (A土69)
(57. 1. 3 78歳)

○賛助御協力者

学校法人工学院大学、社団法人校友会出身法人理事 3名、監事3名、校友会理事1名、計7名

広告掲載協力 20社及3名

新年恒例の校友会懇親会は、今年は新宿校舎で行われた。いつもなら熱海とか湯本とかで催されていたのだが、今年は色々と趣向を変えた上に、高山新理事長の特別講演という画期的な計画を盛り込み、また従来は支部単位に出席者が纏められたのが、今回は単体同窓会単位に行うということになり、その結果出席者の顔ぶれにも変化があって、諸先生方のお顔が沢山見られたこと、出席者が年齢的にぐっと若返ったと言えるが、反面、遠隔地の支部会員の方々の出席が多少減少した傾向もあった。いずれにしても大変な活況であった。会は次のスケジュールに従って行われた。

次第 第一部 講演 於 4階講堂
会議 司会 丹羽理事

AM11.00 1. 開会の辞 南経理部長
2. 挨拶 前島校友会長
3. 特別講演 高山理事長
「都市計画から見た東京都」
(別項大要記録通り)

4. 閉会の辞 足立副会長
第二部 懇親会 於 8階会議室
司会 吉岡理事

AM12.30 1. 開会の挨拶 篠原事業部長
2. 遠来者紹介 小野塚支部拡充部長
3. 恩賞者紹介 落合総務部長
4. 乾 杯 長坂副会長
(宴会)

5. 福引その他の余興
6. 学園歌斉唱 森山副会長
7. 母校万才 富所副会長
8. 校友会万才 伊藤学長
9. 閉会の辞 小高副会長

◎出席者

◎来賓出席、高山理事長、伊藤学長、草野 常任理事



学長を囲むテーブル

(付記)

当日の庄巻は、事業部の発案により、懇親会場に出席各教授を囲むテーブル拾数個が設けられ、会の気分の盛



赤松教授を囲むテーブル、篠原委員長とスタッフ

り上った頃あいを見計らい、テーブル毎にサツメロの合唱が行われたことで、配られた歌詞の印刷物を手にして老いも若きも肩を触れ合いながらひとときの熱演を楽しんだ。(角田)

近況報告

◇ 学校法人 ◇

○本学園関係者叙勲について

昭和56年秋の叙勲に際して、本学電子工学科教授・尾佐竹絢評議員が紫綬褒章を受章されました。

(1)工学院大学教育振興協力募金

この募金は、本学の教育・研究振興のために大学学部在学生の父母を対象に行っている任意による寄付金であり、1月31日現在764件56,873千円の申込みがありました。なお、今年から大学在学生の父母に加え、卒業生、本学園教職員、会社団体等からの寄付も免税措置を適用して受入れられるよう改めました。

(2)創立90周年記念事業募金

この募金は、昨年3月末日をもって終了いたしました。4月以降若干の申込みがあり、1月31日現在総額246,247千円になりました。

(3)大学後援会からの寄付

一般寄付金として3,000千円、軽井沢学寮石垣工事費として2,170千円のはか同学寮及び富士吉田セミナー校舎暖房器具等機器備品として2,589,020円の寄付がありました。

(4)その他

本学卒業生・妻島興名誉教授、本学園松本与作監事及び本学園生協からオフィスコンピューター、絵画及び書籍等の寄付がありました。

○専門学校昼間部に学科増設

かねてからの懸案事項でありました専門学校昼間部の充実を図るため、産業界の要請に応え、資格取得を前提とした電気技術科及び環境化学科並びに急激な技術進歩の分野で企業からの要望が強い電子情報科の三学科を昭和57年度から昼間部に増設しました。入学定員は各学科40名です。

なお、これに伴い新学科の内容の充実・発展を期するため、大学の工業化学科村上徹朗教授、電子工学科西野治教授及び同学科尾佐竹絢教授を専門学校運営担当の常務理事会委員に委嘱されました。

◇ 大 学 ◇

◎1月23日(土)、大学後援会地方支部役員および支部設立のための世話会が、本学第1会議室で開催された。後援会では、1昨年から後援会の組織を充実するために、全国各地で「父母懇談会」を開催し、地方在住者の父母に大学の情報を提供するとともに、子息の成績取得

近況報告

状況を報告してきた。そしてさらに、この父母懇談会を軸として、後援会の地方支部の結成を促進してきた。その結果、現在、北九州地区、甲信地区、静岡地区の3地区でそれぞれ支部が結成された。この成果のひとつの区切りとして、今回、世話会を開催したのである。参加父母約100名。学長から学園将来計画についての説明があり、ついで後援会会長から地方支部設立の主旨説明があつて、会は盛況のうちに終了した。

◎2月7日(日)付の『毎日新聞』(朝刊)は、「大学受験に異変」のタイトルで、本年度の大学入試戦線における理工系学科への異常人気を伝えている。この現象は、科学時代を反映し、最近とくに若者間で人気を集めているコンピューター、ロボットなどへの関心がたかまっていることにあると分析。この傾向を示すひとつの例として、工学院大学の機械電気、電子の倍率が紹介されている。

大学第1部の入学試験は、2月8日(月)、電子工学科、2月9日(火)・機械工学科、工業化学科、化学工学科の日程でそれぞれ実施された。新聞が報道するごとく、第1部への応募状況は、昨年をうまわる約1.7倍の伸長となり、機械系、電気系の競争率は高倍率を示した。各学科への倍率は、下記の通り。

(第1部)

学 科 名	定 員	志 願 者	競 争 率
機 械 系 学 科	180	2,163	12.0
工 業 化 学 科	80	536	6.7
化 学 工 学 科	50	445	8.9
電 気 工 学 科	90	1,513	16.8
電 子 工 学 科	90	2,880	32
建 築 学 科	150	1,427	9.5

ちなみに、第2部の各学科の競争率は次の通りである。

(第2部)

学 科 名	定 員	志 願 者	競 争 率
機 械 工 学 科	120	134	1.1
工 業 化 学 科	90	56	0.6

電 気 工 学 科	110	210	1.9
建 築 学 科	110	183	1.4

◎ 任期満了に伴う学長選挙は、学生による除斥投票の結果、伊藤鄭爾教授(建築)、今井功教授(共通)、田中元教授(共通)、波多江健郎教授(建築)、山口章三郎教授(機械)の5候補の全員が第1次候補者となり、大学の専任教職員全員による第1次選挙が行われ、伊藤鄭爾、今井功、田中元の3教授が第2次選挙の候補者となった。ついで行われた大学の専任の教授、助教授、講師の全員による第2次選挙の結果、伊藤鄭爾55票、今井功45票、田中元22票となり、伊藤、今井両候補の決選投票が行われ、第1回の投票では過半数に達せず、第2回の投票で伊藤鄭爾62票、今井功59票、白票1票で、学長の最終候補者には、伊藤鄭爾教授が決定し、教授総会、理事会の承認を経て、57年度から新学長として正式に就任する予定である。(文責 茅原)

(教務部長 宮島 亮)

◇ 高等学校 ◇

《学校行事》

昭和56年10月6日、高校・専門学校連絡協議会設立準備会。57年度より年間2回開催し、両校間の意志の疏通、進学情報の交換等に資することに合意した。10月20日、第1回中学校説明会10月21日、2年生九州一周修学旅行に出発(5泊6日)。本校始まって以来、初めて帰路飛行機を利用。2年間に亘り論議を重ねた結果である。10月26日、第二回中学校説明会、10月28日、第一回推薦試験、工業科約50名を含めて181名が受験。今年度は少数激戦(?)の様相であった。10月29日、第一回大学・高校連絡協議会小委員会、高校出身者の学力及び学習意欲の向上、小委員会の役割等について検討した。

10月31日、11月1日、両日学院祭。第一日目は土曜日にも拘らず、観覧者少く、当事者をやきもきさせる。さすがに二日目は日曜日にふさわしい来訪者でほとしたが、内容も含めて全般に低調の感を免がれなかった。11月6日、大学教務部との教職打合せ会議。高校側の受入れている教育実習生の実習状況の検討、及び工業科教員の担当している大学技術課程の夏休み特習実施状況につ

近況報告

いての報告・要請等を踏まえて、来年度実施内容の打合せをする。

11月9日、第三回中学校説明会。11日18日、防災訓練。法人施設課の協力を得て、各階に発煙筒をたいて臨場感を出す。火災を報せる非常ベルが鳴って、各階からの生徒が全員校庭に集合し終るまでの時間は4分40秒であった。

12月7日、第二次推薦試験。

12月17日、第2回大学・高校連絡協議会小委員会、高校における普通科・工業科併設の意義、大学との関連について従来になく突込んだ意見の交換を行った。

57年1月12日、推試合格者発表、一部125名、二部21名、2月5日、推試合格者に対する学力補充のため指名講習開始(12日まで)、2月20日は入学試験。丙午で志願者の減少が懸念されたが、案に相違して工業科514名、普通科812名、計1,326名で、前年を17名上回っていた。

57年度高等学校入学志願者受付状況

学科別	入学定員	57年度 志願者数	56年度 志願者数	志願者 の増減
工業に関する学科	名	名	名	名
機械科	50	159	136	+23
電気科	50	172	179	-7
建築科	50	102	108	-6
工業化学科	50	81	73	+8
普通科	200	812	813	-1
合計	400	1,326	1,309	+17

◇ 専門学校 ◇

○学科新設統合

学科別	入学定員	日間 志願者数			2月末計	学科別	入学定員	志願者数 2月末計
		推薦入学	一般入学(一次)	一般入学(二次)				
木 科	40	23	19		42	木 科	40	34
機 科	//	39	32		71	機 科	//	19
建 科	//	67	83		150	造船コース	//	8
電 科	//	0	12		12	金属コース	//	5
電 科	//	1	17		18	電 科	//	15
環 科	//	2	2		4	電 科	100	57
計	240	132	165		297	用 科	40	27
						計	340	165

出願期日3/1~3/16

出願期日1/18~3/31

《進学》前記工学院大学への進学者の他、2月現在、東海大、明星大、工芸大、独協大、城西大等に20名が決まっておりなお19名が国立・私立の諸大学を受験中である。専門学校も、工学院大学専門学校の18名を筆頭に80名が進学している。

《就職》1月中旬に就職希望者83名全員が決定、その中、電気、自動車関係企業への就職者が半数以上を占めている。主な就職先は下記の通りである。電気化学、同和工業、日野自動車、日産自動車、日本光学、三菱電機、日本電気、国鉄、東京電力、電信電話会社等。

《クラブ活動》

○自然科学部、秋の日本学生科学賞出品を目指して、太陽スペクトルの分析、星の撮影などに使える天文機器の製作に着手。

○柔道部、2月7日、東京都第五支部新人戦に、参加63校の中から、拓大一高を破って優勝、前年度の雪辱を遂げると共に、東京都大会への出場権を獲得した。

○サッカー部、参加40校の中から、東京都第七地区の決勝まで進出したが、11月8日、桐朋高校に3-0で惜敗、都大会進出は果たせなかった。

《消息》東京都知事表彰、遠藤鎮雄校長
多年に亘り、私立学校の校長、教諭として学校教育に専念され、私学の振興に貢献された功勞によって、10月1日東京都知事から表彰を受けられました。

(高校 富越美知夫)

昼間部：57年度から電気技術科、電子情報科、環境化学科の3学科が新設されます。11月5日増設決定後の募

近況報告

集開始で、初年度は多くを望めませんが、今後の伸びを期待しております。

夜間部：57年度から造船科、金属科を機械科へ統合し、造船コース、金属コースとします。極力共通科目を増し、合同授業による合理化をはかることになりました。

○入学志願者状況

全国の約1,500高校に入学案内を送ると共に、校長を先頭に教職員を動員して、重点的に学校や会社を訪問推進しております。同窓会、校友会の皆様からの積極的なご援助に感謝申し上げます。

入学時の数に対する卒業予定者数の率は、昼間部60%、夜間部45%となります。

尚、昼間部第2回卒業式、夜間部第179回卒業式、建

築科研究科第15回卒業式を合同で3月28日(日)に挙行いたします。

○56年度就職状況

就職希望者の約10倍の求人いただきました。本年度の特徴は大企業志向で、土木・建築科の就職者の約25%が大企業でした。(求人企業数約800社)

(校務長 安原 豊)

○卒業予定者数

	土木	機械	電気	建築	応化	造船	金属	合計	建築・ 研究科
昼間部	58	46		70				174	
夜間部	45	21	32	100	20	10	3	231	45

賛助会費徴収のお願い

会長 前島 為司

昨年の総会において承認をされました賛助会費を、今年度より正会員からも徴収させて頂くことになりました。同窓会、校友会の合併により、それまでの校友会費は、年会費納入者をも含め、現在迄一応徴収を見合わせておりましたが、昨年より新たに、大学20,000円、高校、専門学校15,000円の校友会費(同窓会費を含む)を学校卒業時迄に納入することになりました。

そこで正会員の皆様からも、校友会の定款の第6条2項賛助会員の項を適用致しまして『賛助会員費は1口

2,000円以上とし、1口以上を毎年納入するものとする。但し、25口(50,000円)以上又はこれに相当する物品を一時に納入した場合は以後の納入を要しない。』という規定をもって賛助会費の徴収をお願い致します。現在校友会の運用財産は残り少なく、定款に基づく事業を行うに足る資金はほとんどない状況です。会員一人一人の絶大な御協力をお願い致します。なお徴収された会費の一部は支部の援助金として活用される予定です。

別紙振込用紙にて会費を郵送して頂くことで、賛助会員の登録手続きをさせて頂けます。よろしくお願い致します。

社団法人 工学院大学校友会 第26回 定時総会開催お知らせ

会長 前島 為司

目 時 昭和57年5月30日(日)午後2時30分~5時30分
場 所 工学院大学第一会議室(8階)

第1号 昭和56年度事業報告書並びに収支決算書承認の件

第2号 昭和56年度財産目録承認の件
◎監査報告

第3号 昭和57年度事業計画(案)並びに収支予算(案)承認の件

第4号 評議員、役員任期変更について(定款一部変更)

第5号 賛助会員費について
<注意>1. 本誌に同封の郵便はがきにより、折返し出欠の有無を御回答下さい。
2. 施行細則第8条により、当該議事について意志表示のない場合は、同意の意志表示とみなして、出席者数に加えることができますのであらかじめ御了承下さい。